２０１７年　カトリック笹丘教会
9月号　教会ニュース
福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会
福岡教区今年度の目標・・・「いつくしみから踏み出す第一歩」　No. 006 1
小教区今年度のテーマ・・・「やってみよう 私にできることを」

恐れが席巻する世界の中にあって

主任司祭　遠山満

最近、毎日のように報道されているニュースは、北朝鮮によるミサイルの発射実験や核実験、及び、それに伴う、日本国内での反応です。先日、北朝鮮から発射されたミサイルが、日本上空を飛び越えた際、多くの所でＪアラートが鳴り、鉄道などの交通機関にも影響が出たとの報道がされていました。また、ある小学校で行われた避難訓練の様子や、日本海で漁をしている漁業関係者の方々へのインタヴューなども放映されていました。北朝鮮の軍事行動によって、私達の日常生活が脅かされていると、多くの皆さんが感じておられるのではないかと思います。また、どのようにすれば、このような愚行が収まるのかと思っていらっしゃる方達も少なくないと思います。

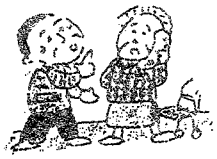
それでは、何故、北朝鮮の政治的リーダーのキム氏は、このような蛮行を毎日のように行っているのでしょうか。先日、ある方が興味深いことを語って下さいました。それは、テレビで報道されている内容によれば、キム氏が抱えている恐れによるものではないか、という事でした。ソビエトや東ヨーロッパの共産主義が崩壊し、民主化へ転じたのは、1989 年のことでした。その際、ルーマニアでは、大統領夫妻が、公開処刑されました。キム氏は、自分も、そのようになるのではないかと恐れを抱いているのではないかと言う事なのです。そのように考えると、今の行動が何となく理解できます。と同時に、彼の持っている恐れの念が、世界の中に拡散していることにも気づかされます。

ヨハネの第一の手紙の中には、次のように書かれています。「愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。何故なら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです」(4 章 18 節)。私達が抱える恐れは不思議な感情です。それは霧のようなものかもしれません。空気中に広がっていれば、恐ろしく感じられるのですが、それを集めてみれば、バケツ一杯にも満たない水であることがあります。私達が昨今抱えている恐れも、大本はキム氏の心の中から広がってきているものではないでしょうか。それゆえ、私達は、彼の為に祈りましょう。彼が恐れの念を克服できますように。また、良心に従って、政治的なリーダーとして生きていくことができますよう、皆で祈りを捧げましょう。

カトリック笹丘教会　拡大信者会　議事録

日時　：平成29年9月3日（日）　11：30～12：20頃

場所：　カトリック笹丘教会　信徒会館　ホール



議題

1．敬老会について

・日時　：　9月24日(日)10時ミサ後

・対象者　：　76名（75歳以上）、例年30～40名参加

・ミサ後に、病者の塗油が受けられる。

・ヒルデン神父様の誕生祝いを合わせて行う。（誕生日：9月29日）

・日曜学校の子どもたちからお祝いカードを渡してもらう。

2．小教区巡礼について

場所　：　宗像黙想の家敷地内に移築された「旧鹿児島ザビエル聖堂」

日時　：　10月あるいは11月の土曜日（※黙想の家の予定を確認して決める）

内容　：　詳細は別途検討する。

交通手段　：　神学校のバス　or　乗り合わせ　or　路線バスを貸し切りに（？）

3．叙階記念誌作成について

・10月初旬か中旬に発行予定。（笹丘小教区として発行）

・初誓願から叙階までの写真とメッセージで構成。

・ゆかりの教会として、出雲・日向教会に原稿依頼済み。

・笹丘からも、司祭・信徒会長・他数名信徒の方にメッセージをお願いしたい。

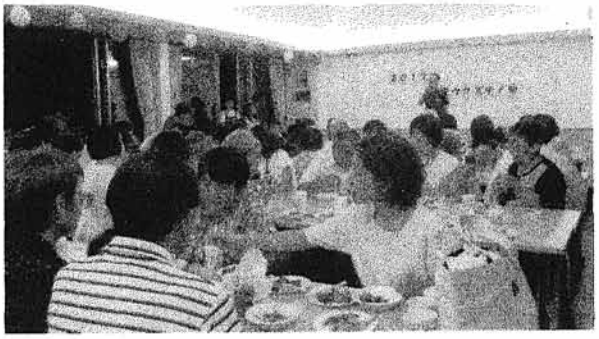
4．メンテナンス委員会設置について

・施工会社からメンテナンス計画が出されているが、小教区としてもメンテナンス委員会(仮称)を立ち上げて、資金計画も含め検討する。

・教会建設の借入金は予定より早く返済できそうだが、維持費とは別に万一メンテナンスのための積み立てを実施する際は、借入金返済終了をはっきりさせて、「建設費返済積立金」のピンク色の封筒を変更する等配慮が必要。

2017年聖アウグスチノ祭　8月26日(土)19時半～

中学の放送部で活躍の古川さんの司会進行で始まりました。青年会中心で進められました



たくさんの信者さんであふれました

ご招待を受けた仲間の紹介・・・

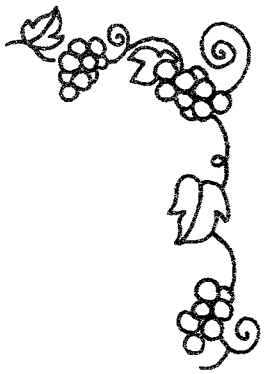
弓矢ゲーム　若い子ほど上手い？？

祈りの会のメンバー　フルートに
合わせての聖歌　心の安らぎでした

焼き場は暑い暑い・・・おいしかったですね～

８月２８日は遠山神父様のお誕生日
美樹さんの手作りケーキでお祝い

最後は恒例のアーメンハレルヤ　　盛り上がります



信仰のルーツ

ルルドのご聖水

私は、生まれた時から心臓に穴が開いていて、このままでは２０歳まで生きられないと言われ、幼稚園の頃から入退院を繰り返しながら育ちました。小学校６年の時（55 年前）手術をする為に、東京女子医大病院に入院しましたが、その頃心臓手は成功率が低く、昨日まで一緒に遊んでいた友達が手術室へ向かうたびに、次々に亡くなってしまいました。私も手術日が決まりましたが、祖母が反対し「この子は寿命まで生きたほうがいい」と言い、キャンセルして帰ってきてしまいました。高校２年の時、いよいよ体調が悪くなり、鼻血が止まらず、入院して輸血で命を保っている状態でした。

高校はカトリックの学校でしたので、宗教の時間があり、シスターから神様の事をいろいろ教えて頂き、きれいな心で天国に行きたいと思うようになりました。

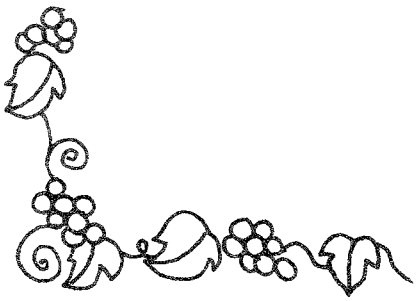
いよいよ具合が悪くなった時、神父様は病院のベッドの上で洗礼を授けて下さり、終油の秘跡も受けました。

その時、シスターがフランスのご友人から空輸で届いたと言うルルドの御聖水を飲ませて下さいました。それは、私ののどを潤し、心に安らぎを与えました。

その後、鼻血は止まり、徐々に回復して、20 歳の時、心臓の手術をし、やっと普通の生活ができるようになりました。その後もいろいろな病気で４回手術をしましたが、６０代の今も生かされています。

今まで私を支えて下さった皆様に感謝しつつ、残りの人生を大切に生きたいと思います。

神に感謝（K.T）



編集後記

「天国泥棒」という言葉を耳にしたことはないだろうか。死の間際に受洗した人のことをやや皮肉った言葉のようだ。「天国泥棒」という言葉には日常の厳しい生き方から逃げてきたくせに、最後の最後で救いを「盗む」のはずるいというニュアンスがあるように思う。果たしてそうだろうか。ルカ 15 章 21-32「放蕩息子のたとえ」が浮かんでくる。「天国泥棒」は父のもとに立ち返った「弟」そして、「天国泥棒」と揶揄し皮肉るのは「兄」。『わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません、それなのに。』キリスト者であることに喜びよりも厳しさを感じてしまう兄＝私。「天国泥棒」の立場のこんな話を聞いたことがある。死に直面した人と司祭の会話。『今、洗礼を受けたら、まるで「天国泥棒」になりませんか』『今までの辛くて長かった人生は受洗のための勉強の期間だったのですよ。大丈夫』という司祭。

それにしても、人生の最後に身近な人々を神のもとに導く葬儀に立ち会うことが度々ある。「天国泥棒」それは、身を賭しての究極の「福音宣教」なのかもしれない。

（Y．K）